

# 下越森林管理署村上支署長が語る

支署長 後藤 寿也

## 1 管内の概要

下越森林管理署村上支署は、新潟県の最北部の村上市にあり、村上市、関川村、粟島浦村(国有林はない)の1市2村にまたがる区域を管轄しています。

このうち、国有林の(官行造林を含む)面積は、約6万6千haであり、4つの森林事務所(村上(女川)・塩野町・館腰・関谷)【5担当区】で管理経営をしています。

### ① 気候と気象

当支署管内の気候は、「北陸の日本海側気候」に属しており、冬も降水量が多い多雪地域です。これはシベリアからの冷たい季節風が日本海を吹き抜ける際に、対馬海流で暖められた海水から多量の水分を吸収し、日本列島の脊梁山脈を越える時に激しい上昇気流となって日本海側に多くの雪を降らせるからです。そのため、三面川などの上流域の奥地山岳部では雪崩等により基岩の露出している箇所が多く見られます。

年間の平均気温は 12℃前後で、夏は短く、蒸し暑く、ほぼ曇りの日が多い状況であり、冬は非常に寒く、風が強くなり、年間を通じて湿度が高いのが特徴です。気温は 0℃から 29℃程度の範囲で変化しますが、-3℃未満または 32℃を超えることは滅多にありません。

年間の降水量は平野部では 2,200 mm前後で、山間部では 2,400～3,000 mmに達し、7月～9月にかけて集中豪雨に見舞われることが多く、中でも昭和41年7月の下越水害及び昭和42年8月の羽越水害や令和4年8月災害では、当該地方に大きな被害をもたらしました。

なお、初霜は11月初旬で、晩霜は4月中旬頃、初雪は11月中旬で、晩雪は4月上旬頃です。また、積雪量は 50～200 cmですが、奥地山岳地帯の多いところでは4mにも達するところもあります。



### ② 山系

東部の「朝日山系」と南部の「飯豊山系」があり、いずれも急峻な山脈で、山々が連なり連峰縦走路として多くの登山家などが訪れます。

朝日山系は、朝日山地、摩耶山地、葡萄山地の3列が並列し、その間には山間盆地が発達しています。朝日山地は、大朝日岳(1,870m)を主峰に、西朝日岳(1,814m)、杣形山(1331m)、寒江山(1695m)、竜門山(1688m)などが連なり、さらに北部は、山形県の麻耶山(1020m)へと連続し繋がっています。蒲

葛山地は、蒲萄山(795m)、新保岳(852m)等が日本海沿いに南北に連なり、その西麓は断層をなし「笹川流れ」の景勝地をつくり出しています。



飯豊山系は、杵差岳(1636m)をはじめ、頼母木山(1730m)、枯松山(1119m)、大境山(1102m)が連なり、杵差岳を除くそれぞれが山形県と接しています。

西部は日本海に面しており、平野部と山岳部との接触部分では急激に地形が変わり、一般に、山岳部は急峻で山容は複雑であり、山麓は緩傾斜地となっています。

両方の山脈は「磐梯朝日国立公園特別地域」に指定されており、四季折々の山の姿を楽しむことができます。



### ③ 水系

山形県境の北側から、「勝木川」、「三面川」、「荒川」の三大河川に大別されますが、いずれも源流は朝日連峰から発するため延長は長く、日本海に注いでいます。

勝木川は、新潟県の最北端の河川で、大川と近接し、北部団地から集水して大毎川、澄川等を合わせて日本海に注いでいます。溪床は花崗岩質の礫で構成されていることから、明るく清らかな水となっています。



三面川は、当支署管内の中央部を集水区域としており、支流には朝日連峰から発する末沢川、泥又川、猿田川、門前川、高根川があり、上流には発電ダムによる大規模な人造湖(奥三面ダム:あさひ湖)があります。三面川の河口には「サケを呼ぶ森」としてよばれている「魚つき保安林」(総面積 2.42ha)があります。この森は、江戸時代から「サケを呼ぶ森」として人々に親しまれ、村上藩はこの森を大切に保存し、現代まで受け継がれています。

荒川は、山形県西置賜郡に源を発し、山形県小国町を流れ、当支署管内の南部を東西に貫流し、沼川、大石川、女川等の支流を合わせて日本海に注いでいます。上流の山形県側では、朝日岳、飯豊山を望む盆地を形成し、県境付近は磐梯朝日国立公園に指定されています。この集水域から集まる水は豊富で、過去に水質ランキングで日本一に輝きました。この清流では豊かな水と環境に恵まれていることから、各地で色々なイベント等が開催されています。

これらの水系は、源流部の積雪がゆっくりと溶けだすものや、降雨により流下するもの、森林の土壌などに浸み込み地下水となりゆっくりと伏流水となり流れます。その水量は豊富で、下流域の生活用水や農業用水等に利用されています。また、各河川では、春にはサクラマス、夏にはアユやイワナ、秋にはサケなどの釣りも盛んに行われており、良い漁場となっています。



#### ④ 地質及び土壌

地質は、粘板岩、砂岩を主とする古生層、それを貫いた花崗岩類からなっています。

土壌は、褐色森林土が大部分を占め、次いでポドゾル・ポドゾル化土壌、受蝕土の順となっており、一部に未熟土が見られます。一般に、褐色森林土は林木の生育に適していますが、酸性度が強く急峻な尾根などに分布するポドゾル土壌、雪崩発生地などの急傾斜地に多い受蝕土、海岸砂丘に分布する砂成未熟土などは、一度伐採すると森林復元に大変時間がかかります。施業の実施にあたっては配慮が必要です。

## 2 森林・林業について

新潟県では、3つの流域(上越地域・中越地域・下越地域)に分かれており、下越地域の「東部の岩船」や「山北」では昔から林業地として盛んに活動が行われていました。

建築用材として用いられるスギの生産や燃料と利用してきた薪、朴の木や栃の木を加工して漆仕上げにした漆器では「村上推朱」が有名です。また、雪国の冬仕事としてシナノキや、オオバボダイジュの木の皮から糸を績み、「しな」の布を織ります。日本の最古の織物の一つであり、「原始布」「古代布」とも言われています。木の皮を剥ぐことから始まる布作りの工程は全て手作業でおこなわれ、約一年をかけて織りあげます。かつては日本各地で織られていましたが、非常に手間ひまのかかる仕事のため各地から消え去り、今で



は山形と新潟の県境の三つの村でしか織られていません。

このように、村上支署管内では森や木との関わり合う文化が昔からあり、現在まで様々な伝統が継承されている、新潟県下において最も林業が盛んな地域です。

### ① 管内における森林の状況

管轄する森林の面積は 66,481ha(官公造林含む)であり、そのうち人工林は 7,754ha(11.7%)、天然林は 52,283ha(78.6%)、その他は貸付地外となっており、その大半がブナを主体とした大径の広葉樹が生育しています。村上支署は、日本海に面する0m地帯から西朝日岳山頂の 1,814mまでの標高差があり、森林の垂直分布は丘陵帯～低山帯～山地帯～偽高山帯に及びます。平地の丘陵帯ではクロマツ、アカマツ、コナラ、ミズナラを主体として、クリ、カエデ類が混生する幼齢、壮齢の二次林で構成されています。山岳帯ではブナを主体としてミズナラ・クリ・トチノキ・ケヤキ等の混生した林分で構成され、尾根筋にはアカマツ・ヒメコマツ・ネズコ等の天然林で構成されています。



人工林はスギが大半を占め、その他にアカマツ等も植栽されており、主・間伐適齢期のⅧ齢級(36～40年生)以上の林分が多い林分となっています。スギは、奥地山岳地帯を除く広範囲に植栽されており、全般に良好に生育していますが、一部には雪による根曲がり、幹割れやクマによる剥皮の被害が見られます。

スギ材の用途については、建築用の角材の他ラミナ材として用いられるほかに、根曲がり部などが木質バイオマス発電用として利用されています。

### ② 国有林の特徴

東部の朝日山地一帯は、「磐梯朝日国立公園」に指定されているとともに、森林生態系の維持保存を図るため「朝日山地森林生態系保護地域」として指定されています。

村上市朝日地区には、「鳴海森林公園」や「猿田川野営場」、「二子島森林公園」があり、森林環境教育の場や市民の森林として多くの来訪者に親しまれています。

西部の海岸林では、防風保安林と保健保安林に指定されているとともに、市民のいこいの場として「いこいの森児童公園」や、「お幕場森林公園」として設定されており、白砂青松の地で野だての茶会が毎年開催されています。



また、与謝野晶子が瀬波温泉地区の景色をこよなく気に入り多くの短歌が詠まれています。これらの青松を守るために、松くい虫の被害防除対策を継続的に実施し、整備・管理しています。

南部には、日本海側と内陸部を結ぶ交通の要衝である荒川があり、先史時代より河川沿いに道ができ「米沢街道」と呼ばれています。関川村では、清流である荒川のほとりに「鷹の巣キャンプ場」があり、

ヒノキ・ケヤキ・ナラの森林に囲まれたキャンプ場で、森林浴、林間学校、探鳥会、昆虫採集などが楽しめる場所となっています。

### ③ 民国連携の取組み

下越地域では、山深い地域の特色から林業は昔から盛んでした。

国有林がある村上市と関川村の総面積は 147,378ha であり、そのうちの 126,353ha(85.7%:森林の占める割合)が森林で、この内の人工林の面積は 29,260ha(23.2%:森林面積における人工林の割合)となっており、森林の大半が天然林となっています。

特に、国有林と民有林の人工林が多く存在する里山地域では、農地等と隣接しているため搬出制限があったり、それぞれ国有林・民有林内に作業道を作設して搬出を行うなど、木材を効率的かつ安定的に搬出できない状況にありました。

このことから国有林野事業では、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化等を図ることのできる地域においては、「森林共同施業団地」を設定し、民有林野と国有林野を接続する路網の整備や相互利用、連携した施業の実施、民有林材と国有林材の協同出荷等に取り組んでいます。

#### (1) 共同施業団地

村上市笹平地区では、森林の多面的機能の高度発揮と資源の循環利用を図るため、平成 25 年 2 月に新潟県内で初めて森林共同施業団地協定を締結し、協定者(下越流域森林・林業活性化センター、(有)阿部林業工務店、村上支署)が連携・協力して森林の団地化を推進し、合理的な路網の整備と効率的な森林施業を実施しています。

さらに、関川村内須川地区においても同様のとの協定を締結しています。協定者(下越流域森林・林業活性化センター、新潟県農林公社、関川村森林組合、村上支署)

両地区は、令和7年3月に協定を更新延長し、対象区域内の森林について計画的な路網の開設や間伐などについて連携し、一体的な森林の施業を実施しています。

また、民有林と国有林が一体となった取組を行うために、毎年「民国連携森林整備推進協定運営会議」を開催し、森林共同施業団地内の路網整備の進捗状況や間伐の実施状況、低コスト造林等に関する現地検討会、林業従事者の育成等についての意見交換や情報交換を行っています。

#### (2) 国民参加の森づくり

近年、企業の社会的責任(CSR)活動等新たな協定締結による国民参加の森林づくり活動が増加し、また、広範な区域について長期間の協定締結が希望されるなど国民のニーズも多様化・高度化しています。このため、協定締結による国民参加の森林づくりについて新たなニーズを対応し、手続きの透明性をより高め、多様な森林整備や保全活動の要請に対応した国民参加の森林づくりを推進することとしています。

先にも述べていますが、県北地域では昔から林業が盛んな地域であり、漁場と森林との関わりについての「森林環境の文化」や、伝統工芸などの「木の文化」を後世に伝える取組みが行われていました。

このことから、各種のコミュニティを通じて、植栽や下刈りなどの森林整備活動や、癒しの空間を保持するための清掃活動等が盛んに行われてきたことや、環境保全の維持・増進を図るために、各種

団体の要請を踏まえて各社会貢献活動を通じて森林の保全を図ることとなりました。

(i) 瀬波夕日の森

平成8年度から「白砂青松」の美しい松林の再生活動がはじまり、瀬波温泉にある国有林の 77.47 ha について平成 12 年3月に村上市長と協定締結を行い、令和7年3月には本協定を延長し、市民による自主的な森林整備活動の場として設定しています。



現在では、瀬波地区区長会、新潟県立村上中等教育学校生徒等により毎年の恒例行事として環境整備や森林整備等を行っており、松林の維持・再生に向けた森林づくりが現在も行われています。

(ii) さけの森林

三面川は新潟県北部の村上市朝日地区から村上市街地にかけて流れ、毎年たくさんの鮭が遡上することで有名な川です。この三面川の源流部の国有林には、ブナの原生林が広がっており、多くの豊かな水を育んでいます。



鮭を守り、後世に引き継ぐためには、「豊かな森林」が必要という考えから、三面川流域の自治体、国・県の関係機関、漁業協同組合、森林組合、緑の少年団、土地改良区、建設業協会などから構成された「さけの森林づくり推進協議会」が平成11年11月11日(サケの日)に設立され同年協定を締結しました。

翌年 11 月から本格的な森林整備活動が開始され、その活動の輪が年々広がり、今では 100 名を超す参加者となり、ブナの植樹や稚幼樹の刈出、歩道整備、森林教室などが行われています。本年度は、東京都荒川区在住の 20 組の親子による参加もあり、参加者も拡大しています。

平成 19 年11月11日には、森・川・海が一体となった保全活動が評価され、滋賀県で行われた「第 27 回全国豊かな海づくり大会」で、漁場保全部門での大会会長賞を受賞しています。

(3) 各種検討会等の実施

令和 6 年 10 月に、新潟県岩船郡関川村大字滝原字上野国有林 1390 ろ 1 林小班において、最新のハーベスタにより「高性能林業機械による伐出作業の効率化現地検討会」を開催しました。

参加者については、新潟県内の各署、新潟県村上地域振興局、村上市、関川村、森林組合、林業事業体などから44名の参加があり、伐倒作業・造材作業の作業工程の検証や意見交換等を行いました。

また、林業における新規就労者を支援するために、下越流域森林・林業活性化センターや新潟北部地域協議会、NPO等による組織活動も活発に行われ、森林の保護活動や森林整備活動を行うとともに、専門学校等の生徒を対象に体験林業「森の仕事体験ツアー WOOD JOB！」を開催し講演を行

うなど、地域を挙げて取り組んでいます。

さらに、令和7年2月に岩船・村上緑化推進連絡会議が主催する「いわふね森づくりセミナー」が開催され、私も「今後の森林・林業について」と題して講演を行いました。

#### (4) 職場体験

毎年、村上市立村上第一中学校の生徒による3日間の職場体験を実施しています。林業関連施設の見学や、ドローンを用いたの概況調査、治山事業施工地の見学、収穫調査等を行い、国有林野事業について職場体験をしてもらいました。

### 3 災害からの復興

令和4年8月3日から4日にかけて、東北の日本海側や北陸地方において前線が停滞したことと、台風6号を起因とする熱帯低気圧の影響により線状降水帯が発生し、新潟県北部では記録的な豪雨となりました。新潟県関川村に設置されている下関気象観測所において8月3日6時～4日6時までの24時間雨量が559.5mm、最大時間雨量148mm(8月4日1時から2時)となり、いずれも観測史上最多を記録しました。

この豪雨により、荒川下流域の国有林、民有林等において広い範囲で多くの山腹崩壊が発生し、国道113号やJR米坂線に崩壊土砂が流出し、国道は一時全面通行止めとなりました。JR米坂線は現在も復旧の見通しがたっており、不通区間では代行バスが運行されています。

また、市道や農地には崩落した土砂が流出したことや、一部の住宅に大量の土砂が流入し、地元住民が避難している状況が一年以上続きました。

このような状況を踏まえ、初期段階では関係機関と合同による地元説明会を行い、リエゾン派遣や緊急物資の提供、応急対策工事等を実施しました。

現在では、国交省、新潟県、村上市、関川村等の各関係機関と調整を行いながら行政一体で早期復旧・復興に向け各種工事を実施しています。



### 4 管内の見どころ等

#### ① 温泉

村上市にある「瀬波温泉」は日本海に面し、海に沈む雄大な夕日を眺めながら入浴できる人気の海浜温泉です。

この他にも、荒川沿いに点在する高瀬・鷹の巣・雲母・湯沢・桂の関の「えちご関川温泉郷」があり、清らかな荒川の流れと四季それぞれに美しい飯豊連峰の素晴らしい眺めが楽しめます。

## ② 景勝地

笹川流れは国指定名勝天然記念物に指定されており、日本海に面した延長11kmの雄大な海岸美を誇る笹川流れは、君戻し岩・眼鏡岩・ニタリ岩・恐竜岩・蓬莱山などと名付けられた奇岩が連なり、四季の変化とともに様々な表情を見せてくれます。

村上市朝日高根集落より8km先には「鈴ヶ滝」があり、源義経公が奥州征伐の際に、駒を止めて観賞したと伝えられる落差 55m幅 10mの瀑布があり、日本の滝百選に選ばれています。



## ③ まつり

村上大祭は毎年7月6日(宵祭)・7日(本祭)に開催される新潟県内における三大祭の一つです。城下町であった村上ならではの勇壮な祭りで、オシャギリ(屋台山車)には村上传統の堆朱・堆黒が飾られた彫刻を施し 19 台のオシャギリ(屋台山車)が市内を巡行します。このほかに瀬波大祭、岩船大祭も地区ごとに開催されます。

また、関川村では村内54の集落が、竹とワラでそれぞれの一部分を作ってつなぎ合わせた、世界一長い蛇としてギネスに認定された長さ 82.8m(昭和 42 年8月 28 日の羽越水害に因む)、重さ2トンの大蛇を約 500 人の担ぎ手とともに練り歩く「大したもん蛇まつり」が毎年8月最終の日曜日に開催されます。



## ④ 名勝・史跡

鳴海金山(なるみきんざん)は高根地内の国有林内にある金山で、戦国時代は全国一の金の産出量を誇っていました。出羽国の相之俣弥三郎が「日本海を航海中、西日を浴びた山が輝いていたため、船を降り、川の砂金をたどっていくこと3日目に黄金の山を発見した」という伝説が残っています。

村上城は中世・近世を通じて、揚北地方(越後北部)における中心的な役割を果たしてきたお城で、標高 135mの臥牛山に築かれた平山城です。市民から「お城山」と呼ばれ親しまれています。

関川村の渡辺邸は、江戸時代の大庄屋屋敷で3千坪の敷地に5百坪の大邸宅があり、国の重要文化財の指定を受け、NHKドラマ「蔵」のロケ地としても有名です。



## ⑤ 物産

きれいな水と豊かな大地で育まれた美味しいお米からできるこの地方の清酒は、名酒ぞろいと評判です。酒蔵は宮尾酒造(〆張鶴)、大洋酒造(大洋盛)の酒蔵があります。



また、酒の肴としては数々の鮭料理があり、昔から鮭を大切にする文化があり、鮭の頭の先から尾ヒレまで、残すことなく頂きます。そのため鮭を使った料理は 100 種類以上もあるといわれます。鮭の心臓に頬、白子に肝臓などの鮭料理が頂けます。



おわりに、「森と川と海」が1つの生態系で結ばれ、深くかかわりあい、豊かな恵みを与えています。水辺の森林が作る木陰は、魚の好む住み処となり、森の昆虫が水面に落ちると魚の餌になります。また、森林からしみ出す養分豊かなきれいな水は、川や海に流れ出し、魚の宝庫である藻場を育てています。

これらのことから太古の昔からある森林を整備し、守り続け、豊かな水を育み「森と川と海」と後世へ繋いでいきたいと思っています。